2026年4月5日「よみがえられた主」

ルカの福音書24章1～12節

復活節を迎えました。今朝は、主イエス・キリストの復活の出来事から学んでいきましょう。

１．主の初めの日（1～4節）

①香料を持って墓に（1）**「週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。」**

イエスは十字架上で死んだ後、アリマタヤのヨセフの労によって、墓に葬られました。墓は岩に掘られたもので、誰も葬られたことのないものでした。遺骸は亜麻布で包まれ、安置されました。それは安息日の始まりの日でした。ガリラヤから来ていた女たちもその様子を見届けていました。彼らは戻ってくると、香料と香油を用意しました。（ルカ 23:50～56）。安息日の翌日は週の初めの日、即ち日曜日に、女たちは準備していた香料を遺骸に塗るために、墓にやってきました。

②石がわきにころがり（2～3）**「見ると、石が墓からわきにころがしてあった。入って見ると、主イエスのからだはなかった。」**

女たちは、墓に向かうさなかでは、墓の入り口を塞いでいる大きな石を誰かがころがしてくれるかと話し合っていました（マルコ 16:3）。ところが、着いてみると何とその石がわきにころがしてあったのです。彼らはすぐに中に入りました。ところが、安置されていた場所にイエスの遺骸はなくなっていたのです。

③まばゆいばかりの衣の（4）**「その女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くに来た。」**

女たちは驚いた後には、途方にくれました。何が起きたのか、どうしたら良いのかがわかりませんでした。そこに、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、彼らの近くに来ました。マルコの福音書には「真っ白い長い衣をまとった青年」（16:5）とあり、マタイの福音書には「主の使いの顔はいなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった」（28:2,3）とあります。

２．よみがえられたというメッセージ（5～8節）

①なぜ生きている方を（5）**「おそろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。『あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。』」**

彼らは恐ろしくなり、地面に顔を伏せるしかありませんでした。ここに。、「その人たち」とありますが、マタイの福音書が「主の使い」と明言しているように、天的存在であったことは間違いありません。彼らは言ったのです。「あなた方は、なぜ生きている方を死人のなかに捜すのですか」。確かに、女たちはもはやそこにはない遺骸を捜していたのす。

②よみがえられたのです（6）**「『ここにはおられません。よみがえられ**

たのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。」

「生きている方を死人の中に捜す」に続いて「ここにはおられません。」と不思議な言葉が続きますが、次の言葉でその答えが明確になります。「よみがえられたのです」。よみがえるという言葉はどこかで聞いた事がありました。主イエスがまだガリラヤにおられたころ、よみがりについて話されたことがあったのです。それを思い出しなさいと言うのです。

③人の子が言われたこと（7～8）**「『人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならい、と言われたでしょう。』女たちはイエスのみことばを思い出した。」**

「人の子」とはキリストをあらわす言葉です。その方は、①罪人らに引き渡される②十字架につけられる③三日目によみがえる、と言われていたことを、女たちは思い出しました。マタイの 16:21 には十字架という表現はありませんが、イエスによる預言の言葉が記されています。

3．報告と反応（9～12 節）

①女たちの報告（9）**「そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。」**

それから、女性たちは墓から戻りました。マルコの福音書によれば、彼らは当初、気も転倒し誰にも何も言わなかったのです。しかし、このルカの福音書には、落ち着いた後に、彼らは 11 人の弟子たちと他の人たちに、自分たちが墓に行って起きた出来事を詳しく伝えていたのです。

②ほかの女たちも（10）**「この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。」**

墓から戻り、出来事を立証した女性たちの名前が、ここに来て記されます。七つの悪霊から解放されたマグダラ出身のマリヤ。マルコの福音書 16:9 には彼女が最初に復活の主と会ったと記されています。それから、ヨハンナはルカの福音書 8：3 にはヘロデの執事クーザの妻とあります。彼女も悪霊から解放された一人でした。続いて、ヤコブの母マリヤですが、マタイの福音書 27:56 にヤコブとヨセフの母マリヤと記されている人物。他にも一緒に行った女性達がいて、彼らも使徒たちに報告をしたのです。

③信用しなかった使徒たちとペテロ（11～12）**「ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。しかしペテロは、立ち上がると走って墓に行き、かがんでのぞきこんだところ、亜麻布だけがあった。それで、この出来事に驚いて家に帰った。」**

それを聞いた使徒たちの多くはそれらをたわごとだと思い信用しませんでした。見なければ信じないのはトマスだけではありませんでした。しかしペテロは早速に墓に向かいかがんで中をのぞき、そこに亜麻布だけがあったことを確認します。彼は起きている出来事に驚き家に帰って行きました。

《展開と結論》 イースターおめでとうございます

今朝の聖書箇所から、三つのことを考えていきましょう。

第一に、御使いと思われるふたりが女達に「なぜあなたがたは生きている方を死人の中で捜すのですか」と問われた点についてです。現代の私たちにも同じ問いがなされています。女達は十字架で死なれたイエスの葬りにも立ち会っていました。ですから墓の入り口の大きな石がどかされ、イエスの遺骸がなくなっている事態のなかで、懸命にその遺骸を捜し、心配していたのです。私たちも、イエス・キリストの復活を科学的に解明しようとするならば、キリストの復活を知ることはできないでしょう。神学校時代に「証拠論」という科目をフォックスウェル先生から教えられましたが、それは 信仰者たちでしたから有益でしたが、未信者がその理論を示されたからと言って信じるものではないと思われます。英国人でフレッド・スミスという生化学の学者がいました。彼は 60 年も前のことですが、ビタミン C の核構造の発見をし、当時はノーベル賞候補にもなった人でした。家族にも恵まれていて順調でした。しかし、一方では何とも言えない虚しさに包まれていました。そんな時に、彼はイエス・キリストの福音に触れるのです。「人は新しく生まれなければ、神の国に入ることはできません」との御言葉に導かれて、スミス博士は、キリストを信じて永遠（復活）の命の恵みにあずかったのです。

第二にここで、御使いと思われるふたりが、「ここにはおられません。よみがえられたのです。」と宣言されたことについてです。それより以前に、イエスは、十字架につけられて死に、三日目によみがえることについて述べていたことを聞かされると女たちはそれを思い出しました。ここには、女たちがそれを聞いてイエスの復活を信じたとは記されていませんが、伝えられたことをそのまま使徒たちに伝えたとあります。さきほどのスミス博士はその後に癌研究もされたようですが、ご自分もかなり進んだ胃癌になり、手術を受けましたが、間に合いませんでした。友人の執刀医に「僕は行くところがわかっているから大丈夫だよ。ところで君は？」とたずねられたそうです。彼は病床で何人もの人々に復活の主を伝え、天に凱旋していったとのことです。私たちもよみがえりの確信にあずかっていきたいものです。

第三にここで、使徒たちが女達からよみがえりの報を聞いた時に、たわごとと思い信じなかったという点についてです。不信仰な弟子たちも、実際に復活の主と出会って信じていきますが、その時に不在だったトマスは、「釘あとのある手と、傷のあるわき腹に差し入れてなければ信じない」と言明しました。一週間後、トマスが復活の主に出会った時、彼は「私の主、私の神」と告白せざるをえませんでした。その時に主は言われました。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです（ヨハネ 20；29）。私たちの教会では、祈祷会ではここのところ第一コリント 15 章を読んできました。信者はやがて、新しいからだが与えられて、主とともに生きるという恵みを学んできました。誰しも、この恵みにあずかるためにも、イエス・キリストの福音を信じて歩んでいきましょう。